

Life depends upon the land

大地は生命の泉

「大地は我々の母である。このアメリカインディアン神秘的な言葉は基本的な真理を言いあらわしている。何故ならば、大地に含まれているリン酸やカルシウムは我々の筋肉や骨格をつくるのに役立っているからだ。

我々の身体が必要とするすべてのものは、雨と太陽を除いては、大地から来ている。自然は大地を丁重にはぐくむが人間は時々大地を粗末に扱っている。今までにも人間は、自らを危険に追い込みながら大地を粗末に扱って来た。大地が衰えたときに人間の生活は消え去ることを過去の消え去った文明の歴史が無言の内に証明しているからだ。

従って人間の文明は土地の生産力の如何にかかっている。豊かな土地は困難な開拓時代や浪費に満ちた成長時代を通じて国民を育てて来た。我々が完成した国民となった今、土地の破壊は農村人のみならず、都会人にも影響することを認識しなければならぬ。

「我々は土の上に生きているのだ、

大地を生産しながら保護すること、即ち土壌保全農業は研究に基づく数々の技術と作業によってもたらされる。その方法として、例えばテラスを作ったり、灌漑をしたりすることは、誰が始めたかは判らぬが昔のやり方であった。

土壌保全の近代的な研究は1915年米国ユタ州の原野で土壌の流亡を測定したことで始められた。それ以来各分野の研究者達が、風や水の侵蝕を防止する方法を開発し、土壌をその場所に保全することが出来るようになった。今世紀の人々は、等高線耕起、帯状の刈取り、刈草で被覆、水路の草生化、あるいは農用貯水池などを実現して、この土壌保全で牧歌的な美しさをも保つことを立証したものである。

しかしこの著しい進歩にもかかわらず、我々は更に努力しなければならない。

広大な土地になお保全処置が必要である。

しかも土地の健全な保全作業、特に餓えた世界への食糧供給を助長するため、これから生産にふりむけられようとしている辺境地の土壌保全も考える必要がある。

米国の研究者達は、土壌保全とその普及のために、土地にほどこさなければならない新しい改良方法を開発しつつある。

例えば、無耕作の播種床のつくり方、あるいは、作物の収穫残株をのこして土壌流亡を防ぐ方法などを改善しつつある。また農村周辺の土壌流亡を予知する土壌損亡方程式も出来た。

その研究は基礎的なものであるが、土壌の秘密や性質を探りだし、「原則を守る人は、自然を支配する」という言葉の通りである。

我々はすべて『土に借り』があり、借りを返すべき義務がある。

そして土地を豊かにし賢明に肥培し、土をそこなわないで子供達にそれをひきつぐことがその時代に『生きる人々の責任』である。我々はこれを実現することが出来ると期待しようじゃないか。

(訳者註)

これはアメリカ農業雑誌から引用したものです。日本の20倍の国土をもち、世界一の農業国であるアメリカが、このように『土壌保全、土づくり』をすすめています。アメリカの1/20、そして国土の僅か16%しか耕地のない日本はもっともっと『土壌保全と土づくり』が必要であることは言うまでもありません。

『大地は我々の母である』この言葉を深く味わおうではありませんか。